

『生物多様性ふくおか戦略（仮称）のねらいと位置づけ』

1. 戦略策定の社会的背景

(1) 生物多様性とは

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりを意味します。

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。

分かりやすく言えば、地域（例えば福岡市）に固有の自然があり、それぞれに特有の生き物がいること、そして、それぞれがつながっていることとも言い換えられます。

生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性の3つのレベルの多様性があり、これらの相互のさまざまなつながりも含めて生物多様性としています。

(生態系の多様性とは)

地球上、あるいは特定の地域にさまざまなタイプの自然（森林、湿原、干潟、サンゴ礁、大小の河川など）があること。

例えば、福岡市には、脊振山のような森林生態系、室見川・那珂川・多々良川などの河川生態系、それら河川沿いに残る農地生態系、玄界灘や博多湾などの海洋生態系、それら沿って形成する干潟や砂浜などの沿岸生態系など、多種多様な生態系が存在します。



脊振山地

室見川

和白干潟

玄界灘

(脊振山地の写真は「脊振山景～脊振へのいざない～」【福岡市ホームページ】より引用)
(室見川、和白干潟、玄界灘の写真は「まるごと福岡・博多 フォトギャラリー」【福岡市ホームページ】より引用)

(種の多様性とは)

地球上、あるいは特定の地域にさまざまな種類の生物が生息・生育している状況のこと。

例えば、福岡市の今津干潟や和白干潟周辺では、100種類前後の鳥類が確認されているほか、油山ではこれまでに75種類ものチョウ類が確認されるなど、多様な種類の生物が生息しています。



(写真は「エコパークゾーンガイドブック／福岡市」より引用)

(遺伝子の多様性とは)

同じ生物種内のグループにも、遺伝子による違いがあること。

同じ種の中でも、地域によって、からだの形や模様、行動などの特徴が少しずつ異なります。山や川などで行き来ができず、お互いの集団の間で繁殖があまり行われなくなると、このような差が出てきます。

こうした違いがあることで、生きものは環境の変化などに対応する力をたくわえています。例えば、福岡市の室見川河口付近で多くの人を楽しんでいる潮干狩りで獲れるアサリは、さまざまな模様や形をしています。これも遺伝子の多様性のひとつです。



(写真は「エコパークゾーンガイドブック／福岡市」より引用)

(2) 生物多様性がもたらす恵みとは

私たちの生活の中で当たり前と思っていることの多くが、生物多様性の恵みの上になっただけです。

人々は、今も昔も変わらず、生物多様性から得られる多くの恵みに依存した経済活動、社会活動を行っていると言えます。

このように生物多様性が私たちにもたらすさまざまな恵みは、「生態系サービス」と呼ばれ、以下のような4つに分類されます。

■暮らしの基盤（供給サービス）

食料、燃料、木材、繊維、薬品、水など、人間の生活に重要な資源を供給するサービスを指し、人間の生命や生活の維持に必要なものです。例えば、福岡市の魅力のひとつである多様な食文化も、この「供給サービス」に支えられています。



あぶつても



おきゅうと



ごまさば

(写真は「まるごと福岡・博多 フォトギャラリー」【福岡市ホームページ】より引用)

■自然に守られる私たちの暮らし（調整サービス）

森林があることによって気候が緩和されたり、洪水が起こりにくくなったり、水が浄化されたりといった、環境を制御するサービスのことを言います。

例えば、福岡市の森林は、降った雨を土壌に浸透させ、洪水や濁水を緩和しています。

これも「調整サービス」のひとつです。



曲渕水源林



脊振水源林



長谷水源林

(写真は「福岡市水道水源かん養林整備計画」【福岡市ホームページ】より引用)

■豊かな文化の根源（文化的サービス）

精神的充足、美的な楽しみ、宗教・社会制度の基盤、レクリエーションの機会などを与えるサービスのことを言います。

例えば、福岡市では、紅葉狩り、潮干狩り、さらにはサーフィンなどのマリレジャーなど、さまざまなレクリエーションが楽しめます。これも「文化的サービス」です。



紅葉狩り（油山市民の森）



潮干狩り（室見川河口付近）



サーフィン（志賀島勝馬海岸）

(写真は「まるごと福岡・博多 フォトギャラリー」【福岡市ホームページ】より引用)

■すべての生命の存立基盤（基盤サービス）

植物が酸素を生み、森林が水循環のバランスを整えるなど、生命の生存基盤は多くの生きものの営みによって支えられています。

例えば、光合成による酸素の生成、土壌の形成、栄養塩循環、水循環などが「基盤サービス」に当たります。

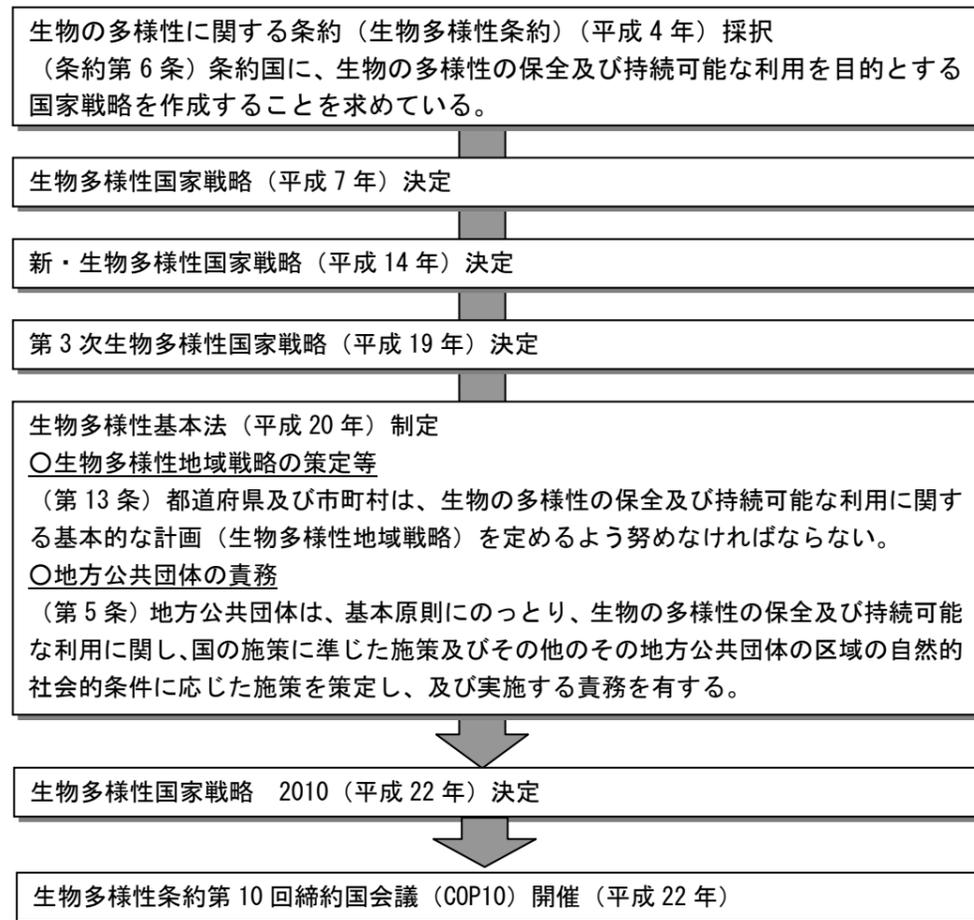
(3) 生物多様性をめぐる動向

世界的な生物多様性の危機を背景に、①生物多様性の保全、②生物多様性の構成要素の持続可能な利用、③遺伝資源に利用から生じる利益の公平かつ衡平な配分を目的とした「生物多様性に関する条約（生物多様性条約）」が、平成4年に採択され、日本は平成5年に締結しました。

日本は、平成7年に「生物多様性条約」に基づく生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本計画として初めての生物多様性国家戦略を決定し、平成14年、平成19年に見直しを行ってきました。

その後、平成20年6月に「生物多様性基本法」（平成20年法律第58号）が施行され、法律上でも生物多様性国家戦略の策定が規定されたことから、それを受け、平成22年に「生物多様性国家戦略2010」を決定されました。生物多様性基本法十三条においては、都道府県及び市町村の区域内における生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（以下、「生物多様性地域戦略」）を策定する努力義務が規定されており、全国各地で生物多様性地域戦略の策定が進められつつあります。

また、平成22年は、日本が議長国を務める生物多様性条約第10回会議（COP10）が、名古屋で開催されました。COP10では、平成14年にCOP6で採択された「2010年目標」の次の世界目標である「愛知目標」が採択されるなど、大きな成果が得られています。



2. 福岡市における生物多様性の意義と戦略策定のねらい

(1) 福岡市の個性・魅力を支える生物多様性

福岡市の個性・魅力を、本市のシティプロモーションのパンフレットでは、PRポイントとして、以下のような11項目に整理しています。

1	アジアと日本をつなぐゲートウェイ都市 福岡市は、日本で最も東アジアに近い都市です。二千年にわたるアジアとの交流によって発展してきた福岡市には、豊かな自然と開放的な気質、おもてなしの都市文化が脈々と息づいています。
2	アジアの活力を取り込み成長する都市 福岡市を中心として半径2,000kmの域内には、人口約10億人の巨大市場が形成されています。東アジアの主要な都市は、世界都市を目指して国家戦略と連動し、ダイナミックな発展を続けています。
3	九州・山口経済圏のネットワーク拠点 福岡市は、新幹線・鉄道網、高速道路網でネットワーク化された九州・山口1500万人経済圏のネットワーク拠点です。
4	新たな活力を創造する拠点の形成 環境と共生する未来都市モデルであるアイランドシティや九州大学が移転する西部地域の学術研究都市 、エリアマネジメントが導入される都心部など先進的都市づくりが進められています。
5	知識創造都市づくり 福岡都市圏は21の大学が集積する「大学のまち」です。
6	文化芸術を守り育てるまち 福岡は、祭りや伝統文化、界隈性のある街のたたずまい、 豊かな食文化 、近代的な文化施設など、文化芸術によって育まれてきた街です。
7	アジア有数のショッピング&グルメシティ 福岡市の中心部である天神・中州地区には、大型デパートから個性的なショップまで多様な店舗が半径約1kmのコンパクトな県内に集積、混在しています。
8	活気溢れる祭りと歴史が息づく観光のまち 二千年前からアジア大陸との交流の窓口としての役割を果たしてきた福岡都市圏は、元気で活気あふれるお祭りや 美しい名所 がたくさんあります。
9	国際コンベンション都市 福岡市は、陸・海・空の優れた交通アクセスと全国有数のホテルのキャパシティ、そしておもてなしの心を活かして、数々の国際コンベンションを成功させてきました。
10	豊かな自然環境と美しい都市デザイン 福岡市は、 博多湾と山々の緑に囲まれた自然豊かな都市 です。 海水浴やハイキング、ゴルフなどのアクティビティを気軽に楽しむことができます。 また、 市街地では自然環境と都市が調和した美しい都市デザイン が形づくられ、都心のセントラルパーク「大濠公園」や、美しい人工海浜が広がる新しいウォーターフロント「シーサイドももち」は、市民の憩いの場となっています。
11	市民が暮らしやすいまち 福岡市では、子どもから高齢者まで誰もが安全で安心して暮らせるまちをめざし、中でも、日本一子育てしやすいまちづくりに力を入れています。 市民の9割以上は福岡市のことを「住みやすい」と感じており、世界からも高く評価されています。

資料：シティプロモーションパンフレット「FUKUOKA CITY～九州・アジア新時代の交流拠点都市を目指して」、福岡市より

これら、福岡市の個性・魅力の中で、例えば、「文化芸術を守り育てるまち」を支える食文化、「活気溢れる祭りと歴史が息づく観光のまち」を支える美しい名所、さらには、「豊かな自然環境と美しい都市デザイン」を支える都市を取り囲む豊かな自然など、その多くが生物多様性の恵みに支えられているほか、「新たな活力を創造する拠点の形成」にみられる環境と共生する未来都市や学術研究都市などは、本市の生物の多様性を背景にして、成り立っています。

（２）戦略策定のねらい

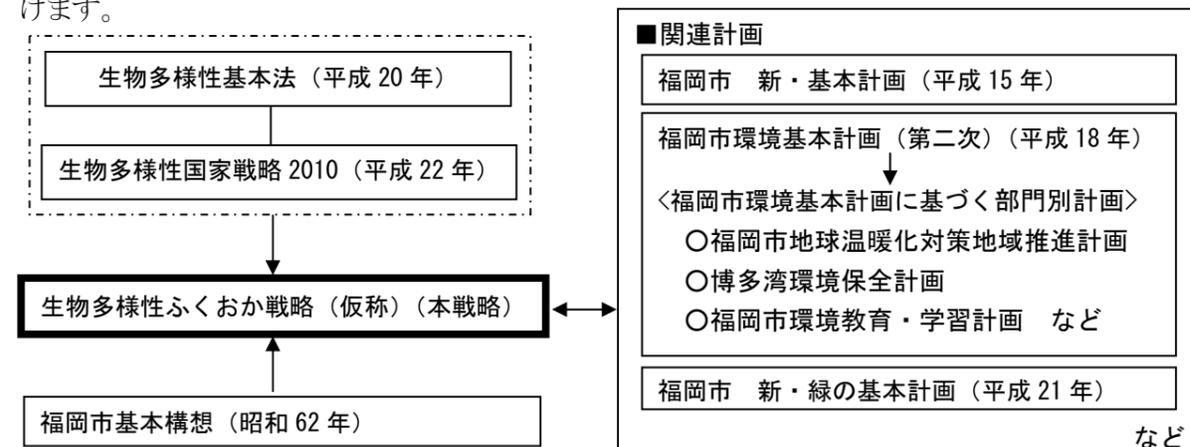
このように、現在の福岡市の個性・魅力は、その多くが生物多様性から受ける生態系サービスによって支えられてきたものであり、これら生態系サービスの持続的利用を支える生物多様性を維持・向上していくことは、都市の魅力を増進していくことにもつながっていくものと考えられます。

「生物多様性ふくおか戦略(仮称)(以下、「本戦略」という)」は、上記の事項を踏まえ、福岡市における生物多様性のあり方を考え、将来にわたって継続的にその恵みを享受するための市域ぐるみの行動計画を策定するものであり、もって、福岡市の活力の維持、向上に資するための長期的な成長戦略とするものであります。

3. 戦略の位置付け

本戦略は、「生物多様性基本法」第十三条に定められた生物多様性地域戦略であり、「生物多様性国家戦略 2010」を踏まえて策定するものです。

また、福岡市の総合計画である「福岡市基本構想」を踏まえ、福岡市の生物多様性の保全と持続可能な利用を促進することで福岡市の魅力を増進するという観点から、行政・まちづくりの基本的方向性を示すものであり、福岡市の活力の維持・向上を目指す長期的な成長戦略として位置付けます。



4. 戦略の期間

多くの生物が複雑に絡み合い構成されている生物多様性を維持・向上していくためには、非常に長い期間が必要であると考えられます。また、上位に位置づけられる「生物多様性国家戦略 2010」が「100 年後も豊かな生物多様性を守り続けるために」という考えに基づいて策定されていることも踏まえ、長期的な成長戦略として策定する本戦略の期間も 100 年間とします。

また、100 年後を見据えつつ、当面 10 年程度の取り組みを行動計画として定めます。

なお、自然環境や社会情勢の変化に対応するために、10 年程度を目処として、見直しを行う予定とします。

5. 戦略の対象地域

本戦略の対象地域は、福岡市新・基本計画の対象とする福岡市全域とします。

但し、生物多様性に関する問題は、山地の連なりや河川の流域など行政区域の外側とも密接な関係を持つほか、野性生物、人、ものの移動を介した国内外の生物多様性への影響なども考慮する必要があります。そのため、対象地域を越えて、より広域に視野を広げた取り組みも検討します。

6. 戦略の構成

本戦略の基本的な構成は、以下の通りです。

